

少年消防クラブニュース

発行/ 財団法人 **日本防火協会**
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16
 (日本消防会館内)
 TEL 03(3591)7121
 FAX 03(3591)7130
 http://www.n-bouka.or.jp
 (季刊・年4回発行)

印刷/株式会社 近代消防社

「少年消防クラブフォーラム2011」の開催概要について

少年消防クラブ活性化推進会議

1日目

基調講演・報告の概要

少年消防クラブ活性化推進会議(委員長・秋本敏文(財)日本消防協会・(財)日本防火協会理事長)では、去る2月11日(金)と12日(土)の2日間にわたって、「少年消防クラブフォーラム2011」を東京都内で開催しました。

このフォーラムには、モデル少年クラブ指導者、海外の青少年消防組織の指導者、地域の少年消防クラブ指導者、消防関係者約160名(2日間で延べ250名)が参加し、少年消防クラブの組織や活動の活性化に関する諸問題、その解決方策などが議論されました。

その概要について報告いたします。



秋本敏文委員長の主催者代表挨拶、久保信保消防庁長官及び文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課の石田善頭専門官の来賓挨拶の後、基調講演・報告に入りました。

その概要は次のとおりです。

1 アメリカ合衆国 全米義勇消防協会理事長 ヘザー・シエファー氏による基調講演



一の全国的なプログラムで、青少年消防隊ハンドブックによるモデルプログラムにより、それぞれの地域に合わせたプログラムを実施している。

・米国の消防隊員の約82%が義勇消防隊であり、義勇消防隊の高齢化に伴い、もっと若い人を取り込むため、2007年に企業の後援による資金の提供により青少年消防隊育成・支援プログラムを創設。
 ・全米義勇消防協会(NVFC)の青少年消防隊育成・支援プログラムは、唯



石田善頭専門官 久保信保消防庁長官 秋本敏文委員長

て報奨が付与される。たとえば250時間で金賞レベルの大統領ボランティア功労賞に推薦し、大統領から、いままでの活動に対するお礼の手紙が送られてくる。

2

ドイツ連邦共和国 ファルケンジ市消防本部消防長 ダニエル・ブローゼ氏による基調講演



・ドイツ消防協会の一部として青少年消防協会があり、全国の青少年消防隊を統括する組織である。

・約2万5千人の義勇消防隊があり、そのうち約1万7千人が青少年消防隊であり、10歳〜17歳(一部で6歳〜8歳)の隊員が24万人以上所属している。女子隊員も5万7千人で全隊員の24パーセントを占めている。

・企業からの資金の提供により、子どもたち、消防本部が賞をもらうためのワシントンまでの飛行機代を負担している。

・各青少年消防隊には、大人の管理責任者が1名在職、この管理者は、消防隊員達によって選ばれ、任期は4年。
 ・青少年消防隊は、週1回集まり約2時間の訓練、キャンプや旅行の計画・準備し、他の消防隊と交流、協議会に参加、消火技術・応急手当を学ぶ、環境保護などの地域社会活動への参加、青少年消防隊の訓練テストを受けることなどを行っている。

3

青森県五戸町 五戸高校少年消防クラブ指導者 川崎由希子氏による基調報告



・大人のユースリーダーは、郡、州、連邦レベルで訓練オプションが用意されている。

・クラブ員は、1年生1名、2年生6名、3年生15名の計22名で発足。女性が若干多い組織となっている。
 ・組織会の宣誓、規律訓練、観閲式での行進、救急救命講習を行う。
 ・活動服が届き、軽可搬ポンプによる操法訓練開始

4

福島県田村市 田村市立大越中学校消防クラブ指導者 目黒堂真氏による基調報告



・日本消防協会からの助成による資機材を購入(テント、ライト、ヘルメット、D級ポンプなど)した。その資機材の置き場として、生徒会室を少年消防本部として活用している。

・夏休みには、消防リーダー研修会に参加した。また、授業の中で「チャレンジ!防災48」を利用し、防災教育を行った。
 ・大規模災害が発生したら家族とどうするかという授業を行い、災害の混乱の中、安否を確認する大変さ(2面に続く)

(1面から続く)
に気づかせ、災害時に持ち出す必要物品を考えさせた。

・11月には避難訓練を行い、12月にはポンプなど資機材が届き、市教育長から資機材が贈呈され、そのビ

5 東京都府中市 府中消防少年団準指導者

町田友則氏、松本峻氏、室井香澄氏による基調報告



・東京消防少年団は、昭和26年に学校を単位としたクラブ、昭和51年に消防署を単位とした少年団、昭和54年に東京消防少年団連盟が発足。
・東京消防少年団は、現在、80団体、3、000人の団員、1、800人の指導者、準指導者で、1団体40人、指導者12人、準指導者11人となっている。
・府中消防少年団の活動状況は、4月入卒団・進級式、5月基本訓練、6月施設見学(防災倉庫及び消防団倉庫)、7月消火訓練(屋内消火栓及びD級消防

デオが福島NHKでニュース番組のコーナーで放映された。

・来年度の課題は、少年消防クラブの指導者・担当者の位置づけ、指導者のレベルアップ、消防クラブ規約の策定を行いたい。

ポンプ取扱要領)、8月野外活動(夏季キャンプ)9月普通救命講習(小学校5年生以下は応急救護)、10月消防少年団八方面のつど

6 発表された皆様への質疑応答

シエファア氏への質問

・6歳〜8歳の児童に対してどのような防災教育が必要か。
・学校教育と少年消防クラブの活動の関係について
・青少年消防隊から義勇消防隊に入るの何パーセントか。

・NVCを維持する手段、バックパックはどのようなものか。
・青少年消防隊は消防職員になりやすいか。

シエファア氏への答え

・防災より防火を多く教えている。家族で防火について話を行っている。アメリカでは、9月に防火週間があり、防火・防災についていろいろ議論される。
・高校生は、卒業するため奉仕活動が必要であり、青少年消防隊が社会奉仕の一

い、11月東京消防庁水防訓練、12月防火祈願もちつき大会、1月東京消防庁出初式、府中市消防団出初式、2月効果測定(各種活動の効果確認)、3月火災予防運動(防災PR活動)等を行った。
・後輩に伝えたいことは、他の団員と仲良く活動してほしい。少年団は、知識・技術だけでなく、「協力することの重要性」などの人

・キャンプの20%位が消防に関する競技会、40%がその競技会のサポートできるもの、サーカスとかバレーボールとかやりたいこと。残りの40%が楽しいこと、たとえば森に行ったり、自然に触れる、また、時間があれば他のチームと交流するなど。

・学校の教育とは関係はない。8時から午後3時まで学校、そのあとの自由時間で消防活動を行っている。

・消防職員の採用は、自治体の権限であります。ただ、過去の経験は採用される利点にはなると思う。

ブローゼ氏への質問

・6歳〜8歳の児童に対してどのような防災教育が必要か。
・年間の活動時間の目標はあるのか。
・キャンプでのプログラムはどのようなものがあるか。消防実技とリクレーションの割合は。

・学校教育と少年消防クラブの活動の関係について
・青少年消防隊から義勇消防隊に入るの何パーセントか。
・青少年消防隊は消防職員

ブローゼ氏への答え

・学校の教育とは関係はない。8時から午後3時まで学校、そのあとの自由時間で消防活動を行っている。

・学校の教育とは関係はない。8時から午後3時まで学校、そのあとの自由時間で消防活動を行っている。

・10〜20パーセント。子どもが6〜8歳で青少年消防隊に入れば、20〜30%は入ってくるのではないかと。それぞれの地域、コミュニティでルールがある。たとえば私たちの市では、ポナスポイントを出すようにしている。

・川崎氏、目黒氏への質問
・活動の際ケガをしたとき、どのような補償があるか。
・市内の学校との関係は。

・川崎氏の答え
・操法訓練の際、短期間の保険料を消防団からだしている。その他は学校の保険を使う。
・市内に1校しかないの

・目黒氏の答え
・学校の教育関係の一環であり、部活動と同じ扱い。学校保険センターの保険が適用される。
・特に問題なし。

・府中消防少年団員への質問
・活動を楽しみ興味あるものにするためどうすればよいか。
・友達との関わりで、友人と高めあったりすることで興味があるのでないか。
・仲間がいたから。仲間と仲良く、先輩・後輩から学ぶこと。

2日目午前 意見交換会(分科会)

2日目午前は、モデル少年消防クラブの指導者48名をA、B、Cの3班に分けて意見交換会(分科会)を実施しました。また、各班から出された意見・討議内容を、次のとおりです。

A班発表者：今村竜一氏 神戸市東川崎防災ジュニアチーム

(1)年間訓練計画の立て方について
・学校と指導者が連絡し合い、学校に1年間の行事予定をもらい、学校行事と重複しないように年度初めに決める。
・学校の全生徒が参加しているの、校長等の関係者と行事を決めている。

(1)モデルクラブ指定後の活動について
・活動服を着ると、クラブ員の気が引きしまり生き生きしている。
・支給された活動服を着用しての訓練実施時には、背筋がピンとして、テキパキと活動している。
・活動服以外の服装の時の動きとは、大きな違いがある。
(2)注目される活動について
・モリタの見学をしたが、子どもたちは、消防車に興味があり、フルメンバの参加があった。特に、消防車、救急車、はしご車などの搭乗体験は盛況だった。
(3)子どもたちが興味を持つ訓練について
・消防職員と同じ訓練をする

・川崎氏、目黒氏への質問
・活動の際ケガをしたとき、どのような補償があるか。
・市内の学校との関係は。

・川崎氏の答え
・操法訓練の際、短期間の保険料を消防団からだしている。その他は学校の保険を使う。
・市内に1校しかないの

・目黒氏の答え
・学校の教育関係の一環であり、部活動と同じ扱い。学校保険センターの保険が適用される。
・特に問題なし。

・府中消防少年団員への質問
・活動を楽しみ興味あるものにするためどうすればよいか。
・友達との関わりで、友人と高めあったりすることで興味があるのでないか。
・仲間がいたから。仲間と仲良く、先輩・後輩から学ぶこと。

B班発表者：勝原盛氏 北海道小平少年消防クラブ

容は、会場を「コスモスホール」に移して、指導者の全員及びシエファア、ブローゼ両氏の参加の下に意見発表を行いました。その概要は、次のとおりです。

C班発表者：塚本真奈美氏 東京都昭島消防少年団

・少年消防クラブが年間計画を定め、地域、学校に合わせていただいている。
(2)子どもたちが興味を持つ活動について
・キャンプ、餅つき、ソフトボール大会
・通常の訓練は、クラブ員の参加が半数程度であるが、レクリエーション活動

の場合には、ほぼ全員が参加する。
(3)ポンプ操法中のけが対策について
・操法する各クラブ員に、消防団員又は消防職員が一人一人付いて、けがの防止に務めている。
(4)活動をどのように地域に伝えるか(広報)
・地域の広報紙、市・町政だよりに掲載してもらう。
・地域のローカルTVでの放映
(5)モデル少年消防クラブに指定されて
・D級ポンプを購入できなかった。
・支給された活動服で足りない分の服を作製した

・川崎氏、目黒氏への質問
・活動の際ケガをしたとき、どのような補償があるか。
・市内の学校との関係は。

・川崎氏の答え
・操法訓練の際、短期間の保険料を消防団からだしている。その他は学校の保険を使う。
・市内に1校しかないの

・目黒氏の答え
・学校の教育関係の一環であり、部活動と同じ扱い。学校保険センターの保険が適用される。
・特に問題なし。

・府中消防少年団員への質問
・活動を楽しみ興味あるものにするためどうすればよいか。
・友達との関わりで、友人と高めあったりすることで興味があるのでないか。
・仲間がいたから。仲間と仲良く、先輩・後輩から学ぶこと。

意見交換会(分科会)

容は、会場を「コスモスホール」に移して、指導者の全員及びシエファア、ブローゼ両氏の参加の下に意見発表を行いました。その概要は、次のとおりです。

A班発表者：今村竜一氏 神戸市東川崎防災ジュニアチーム

(1)年間訓練計画の立て方について
・学校と指導者が連絡し合い、学校に1年間の行事予定をもらい、学校行事と重複しないように年度初めに決める。
・学校の全生徒が参加しているの、校長等の関係者と行事を決めている。

一緒に参加し、実践的な活動を体験することにより興味を持たせる。
・消防署に泊まっているいろいろな体験をする。
・管内の消防で一日職務体験を行い、消防職員から指導を受けて訓練、実際の出場等を体験・見学することにより興味を持たせる。宿泊が困難な場合でも消防署での訓練は効果的であると良い
(3)教本のようなものがある
・具体的な消防技術等が掲載してある教本があると子どもたちも理解しやすい。
・指導者も指導しやすく、指導者が替わっても一貫した指導を行える。

・川崎氏、目黒氏への質問
・活動の際ケガをしたとき、どのような補償があるか。
・市内の学校との関係は。

・川崎氏の答え
・操法訓練の際、短期間の保険料を消防団からだしている。その他は学校の保険を使う。
・市内に1校しかないの

・目黒氏の答え
・学校の教育関係の一環であり、部活動と同じ扱い。学校保険センターの保険が適用される。
・特に問題なし。

・府中消防少年団員への質問
・活動を楽しみ興味あるものにするためどうすればよいか。
・友達との関わりで、友人と高めあったりすることで興味があるのでないか。
・仲間がいたから。仲間と仲良く、先輩・後輩から学ぶこと。

B班発表者：勝原盛氏 北海道小平少年消防クラブ

(1)活動資金の確保について
・少年消防クラブの活動を地域企業にもアピールして活動資金の寄付をお願いする。
・市町村へ活動費の助成を申込み、予算を確保してもらう。
・年間2、000円〜3、000円程度の会費を徴収している。
・会費の他に、行事に費用がかかる場合その都度数百円程度集金している。
(2)子どもたちが興味を持たせる活動について
・実践的な活動をする(一斉放水等)
・合同防災訓練等に消防団、婦人消防クラブなどと

C班発表者：塚本真奈美氏 東京都昭島消防少年団

(1)年間訓練計画の立て方について
・学校と指導者が連絡し合い、学校に1年間の行事予定をもらい、学校行事と重複しないように年度初めに決める。
・学校の全生徒が参加しているの、校長等の関係者と行事を決めている。

2日目午後

シンポジウム

2日目午後は、秋本委員長がコーディネーターとなり、国内、国外の少年消防クラブのベテラン指導者をパネリストとして迎え、昨日行われたアメリカ、ドイツの基調講演、日本のモデ



コーディネーター
 ・秋本 敏文 少年消防クラブ活性化推進会議委員長
 (財)日本消防協会・(財)日本防火協会理事長

パネリスト
 ・ヘザー・シェファー 米国全米義勇消防協会理事長
 ・ダニエル・ブローゼ 独国フアルケンシ市消防本部消防長
 ・横田 真二 総務省消防庁国民保護・防災部防災課長
 ・川崎由希子 五戸高校少年消防クラブ指導者
 ・山口 重行 北多摩西部消防少年団団長

フォーラムの意義

まず、はじめにパネリストの皆様から発言をいただきました。
 ・全国の少年消防クラブの指導者たちが全国から集まり、このフォーラムが行われることは素晴らしい。アメリカでは行われたことはない。
 ・分科会では、アメリカと同じような問題を持っている。資金の問題は、企業からの支援が必要、また、政府からの支援も必要。
 ・メディアの活用が必要である。

・いろいろな情報を公開し、各消防本部で活用すべきである。
 ・日本とドイツの少年消防クラブの違いは、ドイツでは青少年消防隊は消防本部の一部となっており、消防本部の資機材を活用することができる。
 ・ドイツの若者は、学校が終わったあとの自由時間がたくさんあるので、青少年消防隊に加入することができる。

・ドイツでは、青少年消防隊から成人した義勇消防隊に入った人が指導に当たっている。
 ・消防庁としては、少年消防クラブの発展のため、可能な限り応援してまいりたいと考えている。
 ・消防庁では、少年少女消防クラブフレンドシップで、優良な活動されている団体、指導者を表彰している。教材として子どもたち

に防災を知っていただくため「チャレンジ!防災48」を作り、消防庁のホームページでご覧いただけるので、活用願いたい。
 ・少年消防クラブも高校生まで続けて欲しい。
 ・五戸高校と小学生の少年消防クラブと連携がないので、今後、地元でどのようなことができるのか考えていきたい。
 ・北多摩西部消防少年団では、地元の企業30社から協賛金をもらっている。地域密着型で活動している。また、ロータリークラブ、ライオンズクラブからベンチコート70着の寄贈を受けた。

指導者の育成

次に、コーディネーターの進行により、冒頭の発言を糸口に討議が進められました。参加者からの質問に対する回答を含め、各パネリストからは次のようなお話をいただきました。
 ・ドイツでは、青少年消防隊から成人した後義勇消防隊になっていくので、ベイスに教えられた経験があり、成人後も教えることができる。
 ・指導者もボランティアで、仕事が終わった後、子どもたちに教えている。
 ・ボランティアによる教育の中で、専門的な知識をえてきた。
 ・状況はアメリカでもドイツと同じである。しかし、指導者の負担については、難しい課題として、経済状

況を考えると、多くの人がもっと稼ぎたいと思ってしまうので、そういう意味で指導する時間が少なくなっている。
 ・ドイツもアメリカもほとんどの地域が義勇消防隊である。
 ・アメリカでは、一般的には、17歳まで青少年消防隊に所属し、卒業し、高校を卒業して、町を離れ大学のプアウトはすくない。
 ・ユースリーダーがジュニアプログラムの指導を行っている。年齢の高い人が年齢の低い人を教えている。
 ・ドイツでは、いろいろな興味をもち、たとえばガールフレンドとかで15歳ぐらいでやめていく。
 ・東京では、高校生が準指導者として活動している。これからのあり方として一つの生き方かなと思う。
 ・アメリカの青少年消防隊が所定の活動時間を行ったことを証明するのは、地元消防長・消防団長である。

ホームページの中で双方の活動状況がわかるので、子どもたちの中で、もっと活動時間を増やそうと競争が起こることがある。
 ・ドイツでは、年齢にあわせて指導プログラムがあるが、協会のプログラムもあり、テストによりメダルがもらえるようになっていく。各州および消防本部でもプログラムがあり、いろいろとプログラムがある。

年齢別には、9歳〜10歳のプログラムは、楽しく遊べるようなゲームのようなもので、16歳の子どもには本物の消防隊員のようなプログラムとなっている。
 ・五戸では、企業からの寄付金はダメと思っていたが、今後活動内容を企業に出向いていきたい。
 ・アメリカでは、現在まで政府から支援はもらってないが、今までアプローチしていきながら、今後、政府にも働きかけていきたい。
 ・企業との協力は充実している。企業の財団法人にもかなりアプローチしており、これは資金調達にはいい方法と思う。また、助成金に対するガイドを消防本部に出しており、消防本部自体で資金調達ができる。
 ・アメリカでは、青少年消防隊がスパゲティディナーやクッキーを売ったりして、売上げが寄付となっている。
 ・ドイツでは、政府、州政府から多くの援助を受けている。企業と連携もある。様々なアイデアで資金調達をしている。

財政のあり方

アメリカでは、小さい子どもは、救急の際の119番のかけ方、煙のアラームの使い方、緊急避難の仕方を学んでいる。
 ・ドイツでは、小さい子どもにも消防について楽しい遊

びから教えることとしている。
 ・フレンドシップは、クラブ、指導者への表彰であり、アメリカの例では青少年消防隊員個人に対する賞であること認識しており、個人的意見であるが、日本でもできるかどうか関係のところのご意見を伺いたい。
 ・アメリカでは、ボイスアウト、ガールスカウトのクラブは、大きな組織であるが、メンバーであるための費用が必要であるが、青少年消防隊には費用が発生しない。また、活動の内容も違いがある。
 ・アメリカでは大統領から、青少年消防隊員にレターが届く。また、日本では、ボイスアウトの個人表彰として富士賞があるが、少年消防クラブ員に対してどのようなことができるか、関係者の意見を聞きながら考えたい。
 ・個人表彰する際に、どういう活動をしているかという統一したものさし、基準がないので、これから考えて行くにしてもそう簡単ではないが、共通の宿題である。

・阪神・淡路大震災の画像や写真を子どもたちに見ていただくことは、疑似体験として必要である。
 ・アメリカ、ドイツでも、青少年がサッカーやゲーム等に興味を持つこともあるが、青少年消防隊のプログラムをもっと楽しくワクワクするよう、また、家族的なものにする事で興味

を引くようリーダー・プログラムが必要である。
 ・高校生も少年消防クラブと関わりを持っていくことが必要ではないか。
 ・全国の指導者の研修会はあるが、全国のクラブ員の研修はできないか。
 ・アメリカ、ドイツにおいても発達障害者のある子ども消防少年クラブの活動については、彼らのできる役割にあわせて対応すべきである。

今後の活性化につなげる

以上で、2日間にわたるフォーラムを終了しました。日本では初めての試みであり、指導員の皆様から大変有意義なフォーラムであったとの概ね好意的な評価をいただけたようです。アメリカ、ドイツにおいても同じ問題を抱えており、モデル少年消防クラブで指導に当たる皆さん方は、活動上の課題や活性化方策などについて、何らかのアイデアをつかんだのではないかと推測いたします。各クラブの今後の活動の充実につなげていくとともに、我が国の青少年消防活動の一層の活性化と地域防災力の強化につなげていくという本フォーラムの目的は達成できたのではないかと考えています。

少年消防クラブ活性化推進会議では、本フォーラムの成果も踏まえながら、これから積極的に支援に取り組んでまいります。



「階上中少年消防クラブ」の総合防災訓練について

(財)日本防火協会 振興部

(財)日本防火協会は、平成22年11月に気仙沼市立階上中学校において実施された総合防災訓練を視察させていただきました。ここにその概要を紹介することとします。

■地域ぐるみの取り組み

宮城県気仙沼市の階上中学校(生徒167人)で平成22年11月15日(月)、総合防災訓練が行われました。同市階上地区は学校を軸にした地域防災活動を継続していることで知られ、モデル

少年消防クラブに選定された階上中少年消防クラブをはじめ自治会、消防団、婦人防火クラブなど、近隣の住民を合わせて約300人が今回のテーマ「共助」を念頭に様々な訓練に取り組

みました。熊谷校長先生のお話によると、同校では、防災教育を通じて命を守る大切さを学ぶこと。そして近隣住民との触れあいの中で地域の教育力の向上にもつながり、思いやり、公共心などを養っていくこともできるのではないかと、このことでした。

宮城県沖を震源とする地震については、政府の地震調査委員会から今後30年以内の発生確率は極めて高いといわれており、津波の発生による甚大な被害も懸念されています。

■三部構成の総合防災訓練

第一部は避難訓練です。訓練は緊急地震速報を活用し、「授業中に震度5強の地震が宮城県で起きた」との想定で、全校生徒が素早く校庭に避難。救急車が到着するまでの間に、けがをした生徒の担架での搬送、応急救護をした後に救急隊に引き継ぐ訓練、倒壊家屋での救出救助訓練など、消防と協力しながらそれぞれの役割を果たしまし

た。このような訓練に、毎年真剣に取り組む生徒たち

■少年消防クラブの防災学習

(学習テーマ)
大規模災害に備え、「自助」「公助」「共助」を一年ごとに実施し、一つのサイクルとして、災害発生時の対応である三つの段階の力を高める。

(ねらい)
一、災害について正しい知識と理解を深める。
一、災害発生時および発生後に必要とされる判断・技能を身に付ける。
一、災害発生時および発生後に大切な相互扶助の精神を養う。

自助・自分自身の身を守るために、災害発生時の被害を最小限にするために事前にできることを考え、実践する。

公助・気仙沼消防署をはじめ多くの関係機関の協力のもと、その活動内容を見え、実践する。

共助・地元の関係機関や住民の協力を得ながら、災害発生時の対応について考え、実践する。

■生徒たちの手づくり「防災3ヶ条」

管内の地区ごとに、生徒たちが自ら作り継承している「防災3ヶ条」の一部を紹介いたします。



第三部は総合訓練です。生徒たちが森前林婦人防火クラブ等の方々と行う炊き出し班、応急手当訓練の救護班、負傷者搬送訓練の救出班、校庭に穴を掘るなどして頑張ったテント・トイレ班、体育館に本格的な仮設ベッドや着替えスペースを設置する避難所班の5つの班に分かれ、各班の指導教諭の下、生徒たちは皆真剣に取り組んでいました。



炊き出し訓練のおにぎり、豚汁(大根、人参、ネギ、豚肉、もつと)いろいろ入っていました。は、視察者にも振る舞われましたが、とても美味しかったです。

宮城県沖を震源とする地震については、政府の地震調査委員会から今後30年以内の発生確率は極めて高いといわれており、津波の発生による甚大な被害も懸念されています。

宮城県沖を震源とする地震については、政府の地震調査委員会から今後30年以内の発生確率は極めて高いといわれており、津波の発生による甚大な被害も懸念されています。



また、体育館の傍らでは、地域のご婦人方と一緒に停電時の非常用照明として、油を使った明かり作りを行っていました。

防災3ヶ条 (最知高地区)

- 一、みんなで助け合おうよ
- 一、日頃から災害に備えて食料など準備しようよ
- 一、災害時はラジオなどで情報を聞こうよ

防災3ヶ条 (上町地区)

- 一、日頃から防災マップを見たり非常食を準備すべし
- 一、災害発生時には、あせらず冷静に行動すべし
- 一、周りの人と助け合い困っている人に手をかすべし

防災3ヶ条 (長磯高地区)

- 一、普段から近所の方とコミュニケーションをとるべし
- 一、事前に災害の準備を徹底的にするべし
- 一、災害時にあせらず行動するべし

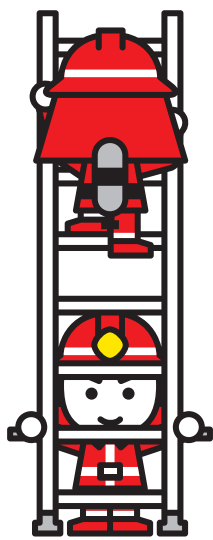
指導教諭の立場から

「生徒たちと一緒にあって、防災を通して、他人を思いやる優しさ、命の大切さを学ぶことができま

す。」と語る少年消防クラブの指導者、菊田裕幸教諭。

今後に向けて、次のお話がありました。

「防災関係機関の協力に関する調整と、各生徒への必要と思います。」



「この地より翔け！」

それでは、訓練終了後の吉田気仙沼消防署長の講評を紹介いたします。



(講評)

平成17年から学校を挙げて、自助・公助・共助をひたすら取り組んでおり地域防災を支える人づくりとして重要な役割を果たしていることと思います。

この4月には、総務省消防庁や文部科学省などで組織する少年消防クラブ活性化推進会議からモデル少年消防クラブの選定を受け、地域の防災力向上や他の中学校の模範として活躍することにさらなる期待をしています。



将来の地域防災の担い手

階上中少年消防クラブは、ここまで紹介したように、災害について自分たちで考え規律正しく活動しています。自助・公助・共助と自分たちで活動のねらいやその内容を理解し、防災学習で学んだことを踏まえながら、災害発生時に自分たちでできることは何か、また、災害発生後の避難所の設営、避難所生活のルールなどその場に応じて必要とされる判断力、技術力を養っています。

在学中の3年間これらを学んで卒業する生徒たちは、命を守るための大切な、災害に対する考え方を身に付けた地域の防災リーダーとして活躍が期待されます。

連携と協力

以上、校長先生をはじめ訓練に携わられた先生方並びに気仙沼本吉広域消防本部のご協力により、階上中

大規模災害において必要なブースを地域の人たちと一緒に考えて、工夫を凝らし、それぞれが関わりを持つことで地域ぐるみの防災体制を構築する災害への備えが強く感じ取れました。

階上中学校少年消防クラブへ望むことは、一つは指導者的な役割への期待です。

もう一つは、将来の災害発生時の地域防災の担い手としての活動に対する期待です。

生涯にわたって地震・津波災害と向き合い、ともに生きていく力を持った人づくり、ここ階上の地より翔いて精進していただければと思います。

今日の訓練は、良好とします。

国において、地域の防災組織が連携し、災害時の被害を最小限にとどめようとするこの大切さを改めて認識させられました。

近年、消防白書などにより、地域総合防災力の強化あるいは自主的な防災活動の重要性がいわれられています。これは、大規模災害の場合、広域的な応援態勢が整うまでには時間を要するので、災害発生直後から活動することのできる身近な防災力が、全国それぞれの地域に存在することの必要性を説いたものです。

このためには、平時から公共と民間の防災組織がそれぞれの役割を担い地域で連携協力することが必要です。少年消防クラブは、将来まで考えた広い意味で、その重要な一翼をなすものと期待されているのです。

結びに

今、地域コミュニティーの弱体化など言われていますが、ここ階上地区では地域ぐるみの取り組みが行われているのです。これも気仙沼本吉広域消防本部の積極的な支援があったからこそと思われま

す。また、校長先生のお話などからも、少年消防クラブの活動を通して、思いやり、公共心、地域への帰属意識などを養っていくこともできるでしょう。

地域防災の担い手を結び

今後、地域防災の担い手同士が相互の連携を深めていくためには、定期的な防災行事や合同訓練などで、互いに顔の見える関係になっておくことが重要です。階上中少年消防クラブの総合防災訓練などはその好例でしょう。

最後に、一昨年日本チームも参加した「ヨーロッパ少年消防オリンピック」の優勝チーム、チェコ代表指導者パベル・ミヘク氏の言葉を枠内に記し本視察報告の結びとします。

—日本の少年消防クラブの皆さんへ—

君たちが学んでいることはとても大切なことです
君たちは大人になったとき自分だけでなく周りの人の命を助けることができます
地域の皆さんの幸福のために君たちが果たす役割はとても大きいのです
パベル・ミヘク

指導者からの便り

指導者として思うこと

札幌市 東月寒少年消防クラブ

指導部長 乙川 明



指導員としてクラブ発足以来15年経過し、自分なりにクラブ運営上の問題点、疑問点、悩み事、実践中の事柄を問題提起致したいと思います。

以下の諸問題は、各地域指導員も同一課題ではないでしょうか。

①指導員、クラブ員の人員確保

当初、管轄内小学校2校より4〜6年生の名簿をもらい、一軒一軒入団勧誘に歩きましたが、非効率なこと踏まえて現在は、クラブ員同志、親同士のつながりを利用したり、積極的にテレビ局、新聞社等のマスコミ関係に情報提供し、クラブのPRに努め地域に浸透させ入団勧誘にも役立てております。

②クラブ員への教育指導

(以下3点の重点目標教育指導を実践中)

- (1)挨拶の実行(おはようございます、さようなら、ありがとうございます等)
- (2)敬語の使用(指導者、大

人なのか。こう考えると指導者のなり手がなくなるのではないのでしょうか。

④準指導員(中、高校生クラブ員)の入団促進に関して

平成22年6月から、クラブ初の高校生準指導員の入団がありました。

少年消防クラブの活動は90%が土・日曜日であること、また学習塾や部活動で忙しいことから、なかなか準指導員として出席できないのが現状です。(準指導員9名中、出席率10%程度)

中、高校生準指導員入団促進に関して、札幌市内において、学校によりボランティア活動を入学合格者査に配慮している学校もある

ひよどり台防災ジュニアチームの年間活動計画について

神戸市 ひよどり台防災福祉コミュニティ



委員長 林 喜久治

阪神・淡路大震災で地域防災力が必至との教訓から、中学生を中心とする防災ジュニアチームが発足しました。

少年チームの結成は神戸では2番目、当チームの名前は「防災ジュニアチーム」は今では一般的に使用されるようになっていきます。地域防災力＝地域住民の



平成23年札幌市消防出初め式に参加

CPR(胸骨圧迫マッサージ、人工呼吸)及びAED(自動体外式除細動器)簡単な応急手当等の実習、無線指令室の見学、署内見学、消防車積載物品の説明、緊急時での電話対処法、放水実習訓練、訓練大会見学、規律訓練指導等を実施しています。

でもこのような流れが拡大して行くことが若者のボランティアの裾野を広げていくことにもなるのではないかと同時にそうなって欲しいと願っています。

また、札幌市内の指導員構成については、消防団員

30%、町内会役員・保護者等70%、消防職員、教員が0%です。資料によりますと、全国での指導員構成は、消防職員、教員が62%を占めています。この違いは、設立母体が違う(札幌市は連合町内会単位であり、消防機関や学校単位ではない)ことによるものと思えますが、今後、地域に居住する消防職員や教員、またそのOBなど幅広い層からの指導員登用が望まれます。

⑥他クラブとの交流活動状況

当クラブにおいては、札幌市内の他クラブとの合同行事が実施され、「一泊キャンプ」「防火もちつき」「防火クリスマス会」など

他クラブからの招待を受け参加しています。そのうち「冬の災害避難所体験一泊研修会」(学校または公共施設を借用し、水道・ガス・電気・暖房等ライフラインを一切止め、日本赤十字・自衛隊・水道局・無線連盟・消防協会・防災協会・消防署の協力のものと実施)は、寝具、手袋、帽子等災害時を想定し、自分が持ち出せると思う物品を持参し、厳寒期の一泊体験で、クラブ員主体の地域住民、保護者参加型の行事です。

以上、様々な問題提起をいたしました。これから他クラブ指導者間、消防署、消防団、学校、地域等で話し合いの場を設け、解決の糸口をつかんでいきたいと思っています。



昨年の大規模災害想定訓練

計画に沿って行っています。が、実施順に紹介します。

どの声がありました。防災ジュニアチームの支援があり始めてからはそのような声はなくなりました。

見学者には防災資機材の使用体験をさせました。

を予定しています。地域全体で行う最大の防災訓練で、防災ジュニアチームも大人と一緒に訓練に参加します。

コミュニティ向上を図ることとして、防災ジュニアチームは、災害時の対応訓練はもとより、地域行事、福祉、防犯、環境、地域商業者活性化等を支援する活動も行っています。今では防災ジュニアチームを知らない住民はいません。

夏祭りは子どもから高齢者までの参加する盛大なものに成長しています。

路線バスを借上げて三田のモリタ工場では消防車、はしご車、消救車等の製造ライン、性能を学習しました。

私が、指導者として、これらの活動を進める上で工夫していることは、地域の各団体、学校、行政との連絡を密にして、どうかすると縦割りになりそうになることを防いでいることで、うまく連携がとれていると思います。

今年度は6月5日に新たなメンバー53名を加え、156名で活動を開始しました(昨年とほぼ同数)。

地域最大のイベントである夏祭りを支援。住民の高齢化から、昔は準備にしん



水難救助訓練

数年前から学校に防災ジュニアチーム専任の先生がいます。防災ジュニアチームの活動は、地域コミュニティ化活動の潤滑油を担って、地域防災力を確実に高めていると期待しています。

少年消防クラブの活動

能代市少年消防団

秋田県

平成22年8月17日(火)に、能代山本広域市町村圏組合消防本部で能代市少年消防団結団式を行い、能代市消防団の中田団長より少年消防団員6名(1名欠席)に対し辞令を交付しております。



また、中田団長から「火災や水害など数々の災害を学ぶことが私たちの命を守ることに必要。能代の安全安心のため、子ども達の目標で協力をしてもらいたい」と訓示がありました。

結団式終了後、支給された活動服に身を包んだ団員は、能代市少年消防団の最初の研修として、能代消防署内を見学し、署員から消防車両の機能や通信指令室の役割などの説明を受けております。普段見ること

できない車両や、救助用具などを興味深そうに見入っていました。今後は、月1回のペースで放水訓練や救助訓練等の研修を重ね、秋の火災予防運動や出初式にも参加し、地域防災の重要性を学んでいく予定です。



能代市少年消防団結団式

徳島県

伊島少年消防隊

平成22年8月29日(日)、阿南市総合防災訓練が、阿南市椿町 椿町中学校において行われました。

陸上自衛隊第14旅団、徳島県消防防災航空隊、阿南警察署等15団体以上の参加がありました。

『午前8時頃に四国沖を震源とする震度6強の南海地震が発生。椿地区の被害が甚大で、孤立状態となった。』との想定。伊島少年消防隊も以下の訓練に参加しました。



午前8時 津波避難訓練。
午前9時20分

バケツリレー消火訓練。午前9時40分 倒壊家屋からの負傷者救出訓練、竹竿を利用して簡易担架を作成し負傷者搬送訓練。救急隊、保健センター職員等の指導により、三角巾やAEDの取り扱いの講習を受けました。

その後、椿泊湾にて行われた徳島県消防防災航空隊のヘリによる漂流者の捜索、ホイストでの吊り上げ救助訓練を見学しました。煙ハウス体験、起震車による地震体験、自衛隊車両展示見学等貴重な体験をしました。



午前11時より、自衛隊の炊事トレーラーや婦人会の炊き出し訓練によるカレーを、おいしくいただきました。11時20分閉会式の解散後、帰路につきました。

福岡県

下曾根少年消防クラブ

下曾根少年消防クラブは、福岡県北九州市小倉南区で活動を行っております。北九州市立

曾根東小学校の子ども会に所属する4、5、6年生で組織しています。現在、29名の児童が校区の自治会や小倉南消防署の皆様にご協力やご指導をいただきながら、地域の火災予防に努め、夜間パトロール等を行っています。

創立は昭和56年、今年で29年目になります。活動は年に4回、夏休みに市内の特色ある消防署を訪問し、水難救助隊や化学救助隊の訓練見学や、市民防災センターでの体験など、研修と市内の施設見学や消防艇乗船など有意義で楽しみのある一日を過ごしております。

昨年は8月19日(木)に24名が参加して、市民防災センターで日ごろ見ることでできない消防機械器具の諸元や取り扱いについて学び、ロープを使った結索訓練や渡河訓練などをしました。バランスのとおり方が難しい渡河訓練では、消防隊員の方に要領を指導していただきながら、全員汗びっしょりになって何度も挑戦してました。

また、冬休みには毎年「年末防火パトロール」を行いながら、独居の年長者宅を民生委員さんと共に訪問するなど、大きな声で町内の方々に火災予防を呼びかけ、クラブ員が年長者の方を勇気づける「声かけ運動」を実施しています。

府中町少年少女消防クラブ

広島県

昨年8月の猛暑の中、初めて貸与された活動服を着て、実践的な訓練を実施しました。

訓練内容は、規律訓練、消火・通報訓練、ホース延長・放水訓練、普通救命講習を行いました。



普通救命講習では、クラブ員の保護者と一緒にAEDの使い方や胸骨圧迫など

の講習を受けました。実際に講習を受けるのはほとんどが初めてのことで、1分間に100回のリズムに合わせて、胸骨圧迫や人工呼吸のサイクルを繰り返して練習しました。自分たちの目の前で人が倒れたらどうする? という想定で、真剣に取り組んでいます。



クラブ員は、「初めての体験で難しかったけど、楽しかった。実際の活動で実践できるように今後も頑張りたい。」と話していました。

高知県

片島少年消防隊

小学校の夏休み中である平成22年8月29日(日)、片島小学校に「片島少年消防隊」の子どもたちが集まりました。

夏休み中であるものの、剣道クラブと野球クラブのメンバーで構成しているためいつもより忙しく、この日は9名のみでの写真撮影になりました。



初めて活動服を着せましたが、隊員の中には「カッコいい」、「操法をやってみたい」という子どももいました。

活動服を着たことにより、「少年消防クラブの一員という意識が高まった」と思っています。



この日は、訓練はせずに活動内容を話し合いました。が、近いうちに消防署で規律訓練、救急訓練などを計画しています。

子どもたちも習い事やクラブ活動と忙しく、全員が揃うのはなかなか難しいですが、集まれる日に集まれる子どもたちだけで訓練を行い、少年消防クラブが地域により一層根付くように長い目で指導していきたいと思っております。

これらの活動のほかに、野外炊飯や消火体験なども、毎年様々なプログラムを工夫し、学校では体験することができない思い出に残るボランティア体験をしています。

第東中14区少年消防クラブ

福岡県

第東中14区少年消防クラブでは、年6回の訓練のうち3回を夏休みに行います。今年



は、第1回は開講式と訓練、第2回は上級生が普通救命講習、下級生は119番通報訓練・心肺蘇生法・

には、消防車・救急車等の車両展示、勤務署員の交代、島郷出張所のレスキュー隊によるロープ登はん訓練などを見学させてもらいました。

消防署見学では、梯子車搭乗、放水訓練、ブリッジ渡河訓練、空気呼吸器着装訓練、防火服装訓練などを体験しました。そのほか

したが、途中、消防車の緊急出動が1回、救急車の出動は2回あり、署員の皆さんの迅速かつ機敏な行動、緊迫した雰囲気、つい先ほどまでとは全く違う引き締まった表情などを目の当たりにし、子どもたちにとって、得るものが多い消防署見学となりました。

湧水町吉松少年消防クラブ

鹿児島県

湧水町吉松少年消防クラブは、小学生19名、中学生8名、高校生1名の計28名で昨年度に結成した新しいクラブです。

主な活動としては、消防出初式への参加や県主催の研修会・伊佐湧水消防組合主催の防火フェスタへの参加、年末には地元消防団と拍子木を使用して火災予防夜回りをを行い、地域住民に対して火災予防や住宅用火災警報器の設置推進等の広報活動も行っています。



防災マップ作成中

鹿児島県

伊佐市大口上中目丸少年消防クラブ

当少年消防クラブは、自然豊かな鹿児島県伊佐市の中で、消防に親しむ機会を与え、防災に関する知識を吸収し、火災予防思想の普及を図るとともに、健康で明るく規律・礼儀正しい少年少女の育成を目的としたクラブです。

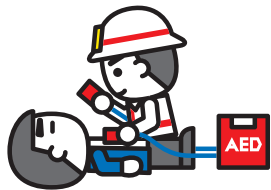
主な活動は、県消防学校で行う研修会への参加や年末に夜間警戒等を行っています。先に行われた県消防学校研修会では、生憎の天候で予定通りのスケジュールとはいきませんでした。が、規律訓練や防災ビデオ



の上映、消防学校初任科生との救助訓練、防火服の試着など普段できない体験をし、日頃の訓練の大切さや防災についてたくさん学ぶことができました。

他の少年消防クラブ員とふれあうことで、良い刺激を受けることもできました。今回学んだことをこれらの活動に役立て、積極的に地域の防災活動に取り組みていきたいと思います。

今後は、地元の防災マップを作成して、災害に対して地域の特徴を知ることや、ケガや病気等の応急手当講習会も計画しています。これからもクラブ員一一致団結し、様々な活動を通じて防災意識の向上に努め、地域に貢献できる防火クラブを目指して頑張っていきたいと思います。



明日へつづく夢・宝くじ♪

宝くじの収益金は、子どもたちの遊び場をはじめとする街づくりなど、みなさまの暮らしに役立てられています。



この遊具「アウエの森」(秋田市大森山動物園内)は、宝くじの普及宣伝事業として設置されたものです。

当せんはしっかり調べて、しっかり換金。
財団法人 日本宝くじ協会
http://www.jla-takarakuji.or.jp

●外国発行の宝くじを、日本国内において購入することは、法律で禁止されています。

